

銘木製造販売キタウチ

未利用材を活用  
新商品開発に力

銘木製造販売のキタウチ(徳島市)が、銘木の未利用材を活用した家具、内装材の開発に力を入れている。住宅事情の変化で主力の和室用建材の需要が落ち込む中、増ってきたノウハウを生かして洋室にも合う商品などを発表。新たな事業の柱に成長している。

現在伸びている商品インが評価されて大手が、数年前から銘木の住宅メーカーから引き端材で製作している神合いが増え、17年には棚だ。2016年には会社全体の売り上げの出雲大社を模した神棚半分を占めた。と、洋風リビングにも16年から始めたデザインなじむデザインの神棚ブルの受注生産も評判を追加。木目の美しさは上々という。家屋解や技術力の高さ、デザインに伴い役目を終えた

神棚・テーブル・内装パネル

洋風になじむデザイン



キタウチが銘木の端材を使って開発した内装パネル＝徳島市の同社

銘木の床柱などを組み品化した。幅4枚、長さ30枚の板を10、14枚、月200万、300万円の売り上げを目指してあるため、板を1枚ずつ設置するより工期を短縮できる。2月には、オークやチークの端材を魚の骨の形に似た「ヘリンボーン」模様につないだ壁・床用パネル材を商販業者者にサンプルを

提供して売り込んでおられ、今ではさ30枚の板を10、14枚、月200万、300万円の売り上げを目指してあるため、板を1枚ずつ設置するより工期を短縮できる。2月には、オークやチークの端材を魚の骨の形に似た「ヘリンボーン」模様につないだ壁・床用パネル材を商販業者者にサンプルを

北内啓夫社長は「反響は大きく手応えを感じている。銘木屋の強みを生かして他にはない商品を出し、巻き返しを図りたい」と話した。(大塚康代)